

ビジネスフレンド



20260811



エリー



目次

エッセイ	1
----------------	---

エッセイ

小学生時代の友だちは、公園で一緒に遊具で遊ぶなど、金のかからない関係を指した。

どの遊具で遊ぶか対立することもある。しかし、誰が金を払うかで対立することはない。そして、知っていることも似ている上に、知らなくても「子どもだから」で済んでしまうため、プライドを傷つけることはない。

年齢が上がり、中高生になると、経済格差や知識格差が、プライドを傷つけるため、関係は複雑になる。

「金がない」と言えず、「付き合いが悪いやつ」と仲間外れにされる。最悪、いじめに発展する。

そして大人になるほど、めんどくさい人間関係から逃れて、ぼっちで過ごす人が増える。

昭和50年代は、みんなが同じテレビ番組を見て話題にしていた。

親にテレビを見せてもらえないために話題に入れないことは、同情の対象になっても、プライドを傷つけることはなかった。自分のせいではなく、親が原因だから。

また情報が少なかった昔は、個人的な話もそれなりに楽しむ余裕があった。

しかし、ネットに魅力的なコンテンツが溢れる今、オチのないぐだぐだな長話を聞かされたらうんざりする。

また8割知っていることを知らず、相手が話題についてこれなかった場合、プライドを傷つけられ、激切れされてしまう。

なにを知っていて、なにを知らないのか、分からない以上、挨拶だけしておくのが無難である。

相談事も、解決するために困っていることを聞くなりよいが、やらない言い訳のために愚痴られるのはしんどい。

そもそも人に相談するより、AIに相談した方が、時間も気にせず便利な時代である。

自分で調べもせずに人に聞く時点で、「地雷」である確率が高いと判断されてしまう。

自分がしたいことに有料で付き合ってくれる人は「友だち」ではないが、愚痴を聞かされて感情のゴミ箱にされるよりはずっとよい関係である。

そう実感したのは、TRPGの無料サイトが、プレイ時間5時間以上の募集ばかりで、体力的に無理であきらめたからだ。しかもボイスチャットがメインだ。

声を出しすぎると頭がぼーっとし、痛くなる。さらにトイレも近い。

とても健康な人のペースに合わせられないが、自分に合わせてもらうのは申し訳ない。

その点、ココナラで有料なら、3時間前後でテキスト希望という「体力に合わせたプレイ」ができる。

何より、有料だからこそ、無関係な話はこちらもしない。関係あることだけ話題にする。

ふとした雑談で相手が知らない話題になり、プライドを傷つけて激切れされる恐れがない。

そしてプレイに限定した会話なら、売り手の方が詳しい。安心して頼ることができる。

よく「自立とは依存先を増やすこと」という。

しかし、家族や友だち、近所の人など「無償の関係」を前提に、「好意」に期待した時点で、切られてしまう。

自分が逆の立場でも、平穏を乱す存在は遠ざける。

そして、「信頼できる仕事を提供してくれる人」を増やすことこそが、「依存先をたくさん持つこと」だと考えるようになった。

無償前提の友だちに、買い出しや掃除は頼めない。信頼できるヘルパーさんを探す方がよい。

家族でさえ介護を引き受けるのが難しい時代に、友だちに介護を頼めるわけがない。

では「無償の友だち」と何をするのか？

もし「ただ居るだけで楽しい関係性」だけに価値があるなら、一人で楽しめる人に友だ

ちはいらない。必要なのは、適正価格でサービスを提供してくれる売り手である。

つまり、払う側になることで、主体になる権利を得る。やりたいことに合わせてもらう。そこ以外は対等。

「お金を払ってやっていただいている」という関係の中には、適正な報酬を通じたプロとしての誠実さや好意も含まれている。そんな「ビジネスフレンド」こそが、増やすべき依存先だとわたしは思う。

作者: エリー

校正: GEMINI

ビジネスフレンド20260811

著 者 ELYE

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
